

乾

麺

18年市場活況で増産へ



うす日

そばは年間を通して安定傾向にあるが、そうめんやひやむぎ、うどんなどは需要期の天候に影響されやすい。14年以降、乾麺日和に恵まれず、各地で減産が相次いだが、17年はようやく下げ止まった。18年前半は前年を下回ったものの、夏の猛暑で需要が急拡大した結果、市場は活況に沸いた。8月から機械製麺を中心に増産体制に入り、9月以降は手延べ麺生産が本格化。播州、島原、三輪の三大産地の増産計画から、18年乾麺生産量はプラスに転じる見込み。18年の復活を弾みに、19年はさらなる市場拡大を狙う。

乾麺生産量の推移

資料：食品需給研究センター調べ

